体験活動参加型（小学校）

別紙様式１

学 校 名 等	各務原市立鵜沼第一小学校
実 施 日 時	令和４年７月27日 10時～12時
会 場	各務原市立鵜沼第一小学校 調理室
参 加 人 数	親子12組
学習課題（分野）	親子料理教室「アルミ缶炊飯」
運営者の願い	夏休みに毎年行っていた「親子料理教室」が、コロナ禍のため２年間休会となった。調理から試食まで道具を共有しないというガイドラインに従い、災害時やキャンプで活用できる「アルミ缶でご飯を炊く」という技を親子で習得してもらう機会を設け挑戦してもらうことで、親子のふれあいの時間としてもらう。

学 習 の 内 容

<募集案内の配付> ７月

<担当役員集合> 9:00
打ち合わせと会場準備
<受付>9:45
手指消毒、検温、材料・道具の配付

<講座開始>10:00
講師紹介 手順の説明 アルミ缶の加工（かまど作り）
燃料は100円ショップで購入可能な固形燃料
（松ぼっくりなども燃料として使用可能）
アルミ缶に米100mlと水100mlを入れ
アルミホイルで蓋をする（輪ゴムで固定）

<講座後半>
〇固形燃料点火後、炊きあがるまでの時間を活用し
災害時のオーラルケアについての講話
・歯ブラシが無いとき
・唾液を出す工夫
・水がすくないときの歯磨き法
〇アンケート配付（アンケートは親子別のものを準備）
子ども：家族みんなで料理をすることがありますか。 ⇒ 何を作りましたか。
１人で料理したことはありますか。 ⇒ 何を作りましたか。
災害の時のために、準備したり、心がけたりしていることはありますか。
保護者：学校での調理実習がないため、ご家庭で何か取り組んでいることはありますか。
災害時の食事のために、準備したり、心がけたりしていることはありますか。
来年度以降、親子料理教室でやってみたいメニューやテーマはありますか。

<講座終了>
・アンケート回収 会場の清掃と撤収
<子どもの声>
・勉強になったし、楽しかったです。
また家でもアルミ缶炊飯をやりたいです。
・すごくもっちりしていて、おいしかったです。

<保護者の声>
・アルミ缶が災害時や家の外で調理道具に変わることを初めて知り、新しい発見をしました。子どもと二人楽しく参加させていただきました。
・こどもがこんなにも白ごはんをたべるのを初めて見ました。とてもふっくらしていて、おいしかったです。

親子で料理をつくる機会を発展させ、学級長さんの知人である元ボーイスカウトのカブ隊長（専門家）を指導者に招き、災害時やキャンプで活用できる技を習得してもらおうという、学級長さんの熱意が素晴らしく、普段ではできない経験を提供されている点がよい。
作ったアルミ缶のかまどは、何度でも使用が可能な点もよい。

ご飯が炊きあがるまでに時間がかかるため、その間の時間を有効に活用できるように、資料を準備されている点が素晴らしい。
また、アンケートを子ども用と保護者用の2種類を準備し、尋ねる内容を変えてみえる点も工夫されている点である。
待つ時間がある場合や作業スピードの違いにより時間が余ることが予想される場合は、このような対策を行いたい。